

甲賀市の大切な自然パートⅡ

第15回 小鳥の多い冬の里山



～ 甲賀市内の大切な自然が存在する地域について紹介します ～

長く寒～い冬。多くの生き物たちが息を潜める中、暖かい羽毛をもつ鳥たちは元気に活動しています。

甲賀の冬の里山では、一年中甲賀地域にすむ鳥の他に、ロシアなど遠く厳寒の地や、中部山岳や鈴鹿山脈の高標高地から寒さを避けて来た冬鳥が加わり、夏よりも多くの野鳥が観察できます。

「ヒッ、ヒッ」と高い声が聞こえたらジョウビタキでしょう。人家の庭先にもよく来る冬鳥で、塀の上や木の枝に止まると羽に白い紋が目立ち、紋付鳥と言われます。

散歩の途中、道の脇の草むらの「ツッ、ツッ」等の声にも注目しましょう。餌を探すホオジロの仲間がい



ジョウビタキ(雄)



アオジ

るはずです。アオジの黄緑色の腹が見えると、嬉しい気分です。

雑木林の木々の間から、様々なタイプの小声が聞こえることもあります。小さなエナガやシジュウカラ、メジロなどが冬越しのため、集団で暮らしているのです。

新年事始め。双眼鏡を持って、冬の里山でバードウォッチングをしてみませんか？



エナガ

問い合わせ **みなくち子どもの森自然館**

☎ 63-6712 ☎ 63-0466

1月の休園日

1日(木)～3日(土)、5日(月)、13日(火)、19日(月)、26日(月)

鳥獣害対策ニュース No.16

今回は甲賀市において年々被害が増加しているアライグマについて紹介します。

アライグマは本来、日本にはいない動物です。ペットとして日本に持ち込まれ、野生化したものが増加し分布を拡大しています。それに伴い農作物被害や生活環境被害が発生しています。

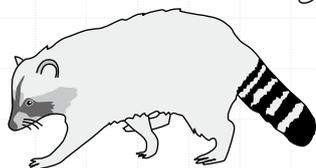
●生態と分布

アライグマの体重は6～10キログラム、全長は60～100センチほどあり、鋭い牙や爪を持っています。また、個体によっては気性が荒く、引っこいたり、噛みついてくることもあります。メスは1歳で出産し、年に1回、3頭～6頭の子を産みますので、爆発的に増えていきます。平地から山地まで幅広く生息可能で、空き家や倉庫、神社、寺で繁殖した例もあります。

●他の動物との見分け方

動物によって防除方法が変わってきますので、効果的な対策をとるためにもアライグマと他の動物と見分けることが大切です。アライグマを見分けるポイント

- ポイントは尾の縞模様が特徴的です。
- また、足跡は5本の指の跡があり、人の手形のようにも見えます。
- 被害対策
- こぶし大の隙間があれば、屋根裏、物置等に侵入することができません。侵入されないように物理的に遮断することが重要です。
- アライグマに限らず、野生動物に餌を与えることはやめましょう。繰り返し出てくるようになります。また、繁殖率も上がり、生息範囲を広げることにもつながります。
- 許可なく飼うことも、放すことも、生きたまま移動させる事も外来生物法で禁止されています。
- アライグマを見つけた際には農業振興課鳥獣害対策係まで連絡ください。
- ※共通感染症の媒介
- アライグマは日本になかった感染症を持ち込む可能性があります。アライグマには絶対に素手で触れないようにしましょう。
- また、糞尿の処理の際にはマスクやゴム手袋を着用するようにしましょう。



問い合わせ **農業振興課 鳥獣害対策係** ☎ 65-0734 ☎ 63-4592